

太陽光発電で駐車場を有効活用 新提案「ソーラーパーキングステーション」

節税対策としても有効な “駐車場一体型の太陽光発電所”

2012年7月にスタートした「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」を契機に、新エネルギーに関連したビジネスが注目を集めている。ここで紹介するのは、このトレンドと駐車場を結び付けた新提案『ソーラーパーキングステーション』だ。同製品を2013年7月から販売している株式会社ONE TO ONEの代表取締役・芝政樹氏にうかがった。

——開発の経緯を教えてください。

「2012年7月から、一戸建てをはじめとする住宅、公共施設の屋根上や、野立の太陽光発電システムの施工、販売を行ってまいりました。野立ですと当然、太陽光発電のみしかできないわけですが、架台を高くすればその下に空間が生まれます。その発想から太陽光パネルの下を駐車場にするというプランを導きました」

——この製品の魅力は何でしょうか。

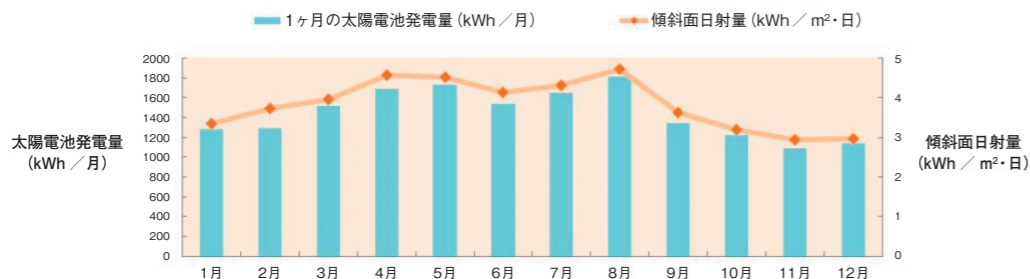
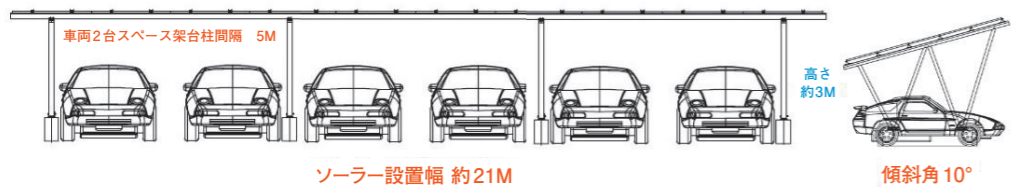
「ソーラーパーキングステーションは、いわば“駐車



発電量は駐車場の規模によって、16.5kW、20kW、50kWなどのオプションがある。この写真は50kWの施工例

場一体型の太陽光発電所”です。発電した電気は、再生可能エネルギーの全量買取制度を使用して、電力会社へ20年間にわたって売ることができます。売電価格は税込みで37.8円/kWhで固定されています。地域や気候などによって異なりますが、当社のシミュレーション（ページ下参照。2013年現在）では、年間の売電収入は税込みで63万円超。これは駐車場料金の収入とはあく

NEDOデータに基づいた16.5kWシステム発電予測（千葉県浦安市のケース 2013年現在）



地域によって日照条件に差があるため、発電量は微妙に異なる。ソーラーパーキングステーションの導入が推奨されるのは、やはり安定した晴天が期待できる地域だ。上のケースでは、年間の予想発電量は16,744kWh。年間の予想売電収入は632,923.2円（税込）

までも別です。さらに、太陽光発電など再生可能エネルギーの普及を推進するために設けられたグリーン投資減税の対象になります」

——グリーン投資減税の内容を教えてください。

「省エネルギー性能に優れた機器や設備などを導入する際に要した費用について、そのうちの一定額を特別償却や税額控除するものです。これを活用すれば、導入費用の一部を節税という形で回収できます。税制上のメリットに加えて、災害時には予備電源として利用することにも期待できます」

発電設備は メーカーが20年間保証

——これまでの実績を教えてください。

「現時点（取材：2013年12月6日）では全国で4か所ですが、多くの問い合わせをいただいております。2014年3月末までに全国各地、計10カ所程に設置できる予定です。2014年は月に5カ所ほどずつ増やしていければ理想的ですね。ちなみに、既に群馬県内の某業者様のコインパーキングでも導入実績がありますので、コインパーキングの運営事業者様にもご興味をもっていただけたと思います」

——仮にソーラーパーキングステーションを導入したいと考えた場合、どのような手順が必要になりますか。

「まずは我々が現地の測量図をお預かりして、周辺の建物を確認して日照の具合をチェック致します。次にソーラーパネルの配列をプランニングして割り付け図面を作成します。その後、現地に適した日照角度や年間のトータル発電量、売電収入額などを計算し、ご提案。合わせてお見積もり額も提示致します」

——設置場所の地面の環境に何か条件はありますか。

「アスファルト、コンクリートはもちろん、砂利石、普通の地面でも設置は可能です。推奨している高さは地面からソーラーパネルの最も高い場所まで約3m。これだけあれば車高の高いバンでも問題なく入庫できるでしょう。支柱の間隔は最長で6m。クルマが2台停めら



別の施工例。俯瞰すると近未来的な光景で、企業のイメージアップにも効果的だろう。駐車場だけでなく、駐輪場にも設置可能だ

れる広さです。なお、1台間隔でも支柱の設置は可能で、その際は幅3mが目安になります」

——工期の目安はどのくらいですか。

「規模にもよりますが、基本的には基礎工事に約1週間、架台組み・ソーラーパネル設置に約2～3日で、トータル10日間ほどです」

——メンテナンス、保証などについて教えてください。

「ソーラーパネルについては、基本的にメンテナンスフリーとお考えください。発電設備はメーカーが20年間保証します。パワーコンディショナー、接続箱、ケーブルなどの発電周辺機器および、支柱などの素材保証は10年間。災害発生時の対策としては、動産総合保険を適用致します」

* * * * *

減税や電力会社への売電契約など専門的な事柄も絡むだけに、不明点は気軽に問い合わせをしてほしいとのこと。現在は太陽光発電で生まれた電力は売電するスキームだが、将来的には電気自動車への充電にまわすシステムづくりも視野に入れているという。節税、安定的な収益増、EV充電設備の導入環境づくり、エコに配慮しているという企業イメージの構築など、さまざまな魅力をもった『ソーラーパーキングステーション』。注目に値する製品といえそうだ。

PP

株式会社 ONE TO ONE
〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-17-2-202
TEL 03-5298-2655 FAX 03-5298-2656
URL <http://one-t.jp/category2/paking.html>